

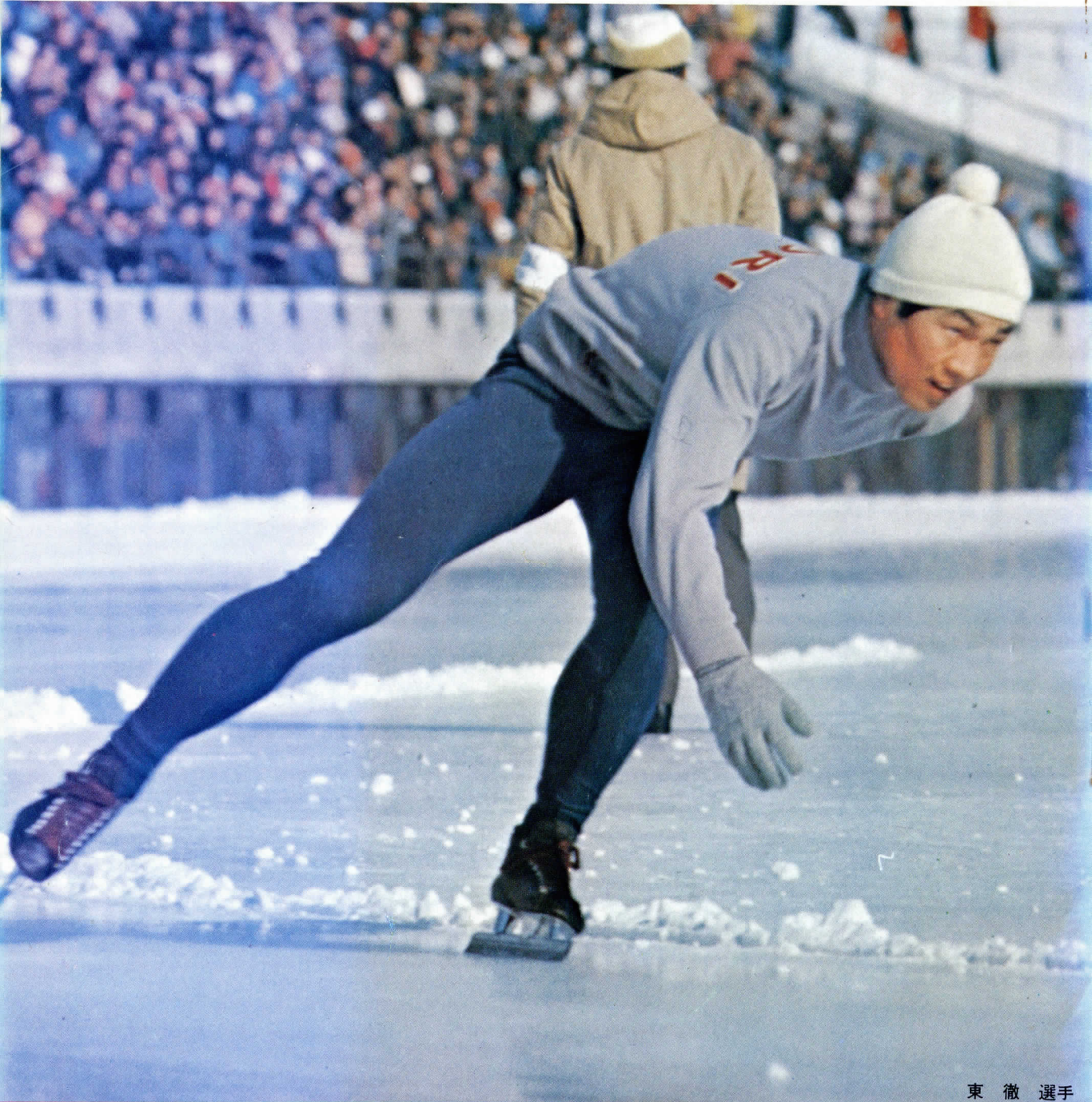


心ゆたかに 力たくましく—— 1974.3

No. 2

あすなろ国体

AOMORI 52



東 徹 選手

第32回国民体育大会青森県準備委員会



冬期国体だより

写真説明・(上)開会式にのぞむ本県選手団

(中右)前田さんの妙技(中左)一万メートル決勝で力走する東選手
(下)対東京戦で敢闘するアイスホッケーチーム(赤色のユニホーム)



第二十九回国体冬
期大会スケート
競技会は一月二
十四日から二十
七日まで、札幌市
と苫小牧市の六会場
で華やかに開催された。

本県の競技成績は、まずスピードスケートでは、高校男子が五千メートルで東徹(八戸商)六位、一万メートルで東徹五位、松橋誠弥(八戸商)七位を獲得、また一般女子が二千メートルリレーで四位に入り、教員男子三千メートルでは東隆(百石高)がみごと三位入賞を果たした。



まがころで訴えようみんなの力で青森国体

あすなろ

開される運動です。直接的には国体の成功をめざしながら、この機会に「心ゆたかに力たくましく」をスローガンに掲げた青森国体の精神を大きな県民運動に盛り上げ、よりよい県民性の伸長と明るく豊かな郷土の発展をはかっています。

このような考えから、「あすなろ国体」県民運動推進要綱は、県民みんなが青森国体の意義を理解し、これに積極的に参加する機運を高めることを目的とし「あすなろ国体」を県民みんなの自発的活動として盛り上げるよう地域住民、各種団体、学校及び行政機関が一体となって運動を推進することを基本方針としています。そして基本目標としては、「親切で明るい郷土をつくろう」「美しい環境をつくろう」「みんなで楽しくスポーツに参加しよう」の三つを掲げ、さらにこれを具体的に進めるため、

また、県民運動の推進母体として「あすなろ国体」県民運動推進協議会を設立して各運動の連けいをはかり、県民ひとりひとりに根をおろした県民運動をさらに強く推進しようとしています。これは、県全体を活動対象区域とする民間各種団体で、県民運動の趣旨に賛同し、実践する団体からなり、先にあげた親切にする運動など、八つの運動項目の推進部会を設け、具体的な運動項目ごとの実行をすすめていくことになっています。



花いっぱい運動のポスターはり

県民運動を盛り上げよう
「あすなろ国体」県民運動は、
青森国体の開催を契機として展

にスタートしますが、国体終了後も、なお将来にわたって続けられ、発展していく長期的な運動となるわけです。

①親切にする運動 ②明るく礼儀正しい態度で接する運動 ③交通ルールを守り事故をなくす運動 ④緑いっぱい運動 ⑤花いっぱい運動 ⑥まちやむらを清潔にする運動 ⑦スポーツを楽しむ運動 ⑧健康生活をすすめる運動の八つの運動項目を細かに示しています。



11月30日に開催された県民運動推進準備会



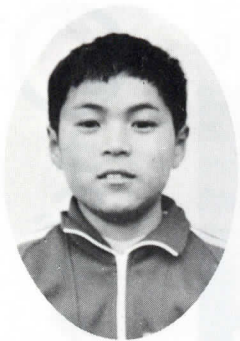
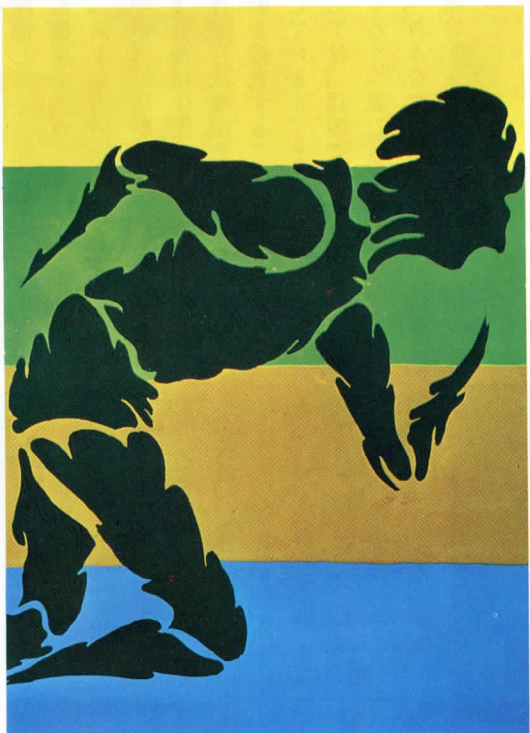
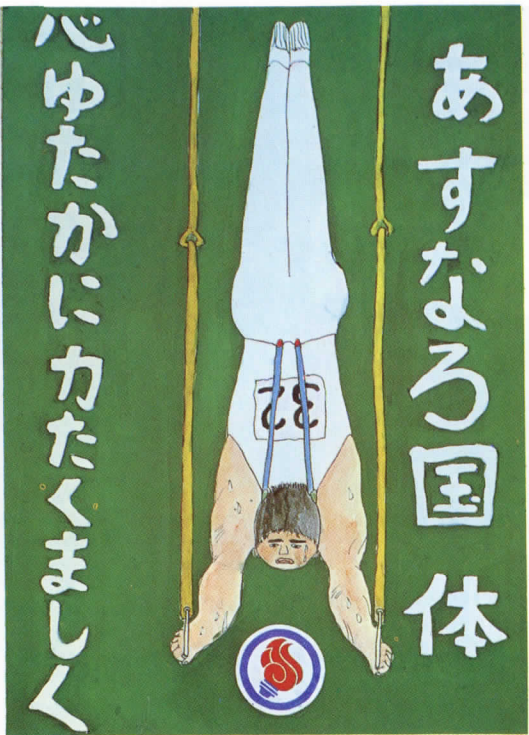
あすなる国体PRポスター入選発表

「国体ポスター、写真の入賞者決まる」

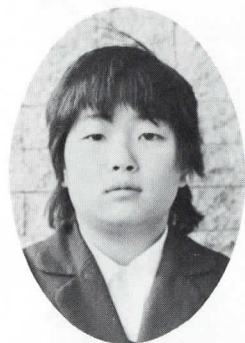
青森国体を県民みんなの力で成功させるために募集した国体ポスター、写真の原画の審査会が、去る十一月二十二日行われ、応募点

数三六五点の中から、次のとおり入賞者が決定した。

なお、この入賞作品の中から、一般の部特選(図案・写真)と小・中学校特選の三点が、県内P・R用ポスターとして発行された。



■小・中学校の部
特選 四ツ役 忠勝
白銀小学校5年



■高校の部
特選 桐原 寛子
八戸東高校3年



■一般の部(図案)
特選 小友 久司
会社員 25才

■一般の部(写真)
特選 藤巻 健二
カメラ店 37才



審査員
右から一人おいて
石橋宏一郎
(二科会会員)
佐藤米次郎
(青大講師)
川村精一郎
(弘大教授)
の各氏



《入選佳作発表》

●小・中学校の部

●入選	●佳作
弘前聾学校 小1年	荒川小学校 小3年
逢田中学校 中2年	吹上小学校 小4年
榎林中学校 中3年	南部小学校 小6年
後藤 かおり	蟹田小学校 小6年
坂本 慶子	向陽小学校 小6年
中村 良子	胡桃館小学校 小6年
工藤かずひと	
奈良 房子	

●尾別小学校 小6年 青山 千恵香

●大不動中学校 中1年 三浦 和博

●横内中学校 中1年 藤林 君代

●南中学校 中2年 小笠原 智子

●逢田中学校 中2年 大川 誠治

●長下中学校 中2年 久保 守美子

●泊中学校 中2年 中村 忠三

●津軽中学校 中2年 五十嵐 昌子

●江陽中学校 中3年 鈴木 博子

●第四中学校 中3年 石岡 範道

●津軽中学校 中3年 石岡 勝則

●弘前聾学校 中3年 葛西 弘子

●若崎 るみ子

●高校の部

●入選	●佳作
弘前実業学校 2年	弘前市在府町 主婦
弘前実業学校 3年	秋山 範子
弘前実業学校 2年	高谷 初男
弘前実業学校 3年	原 隆文
三沢 高校 1年	星 輝昭
相馬 和正	
高橋 達司	
高谷 初男	
原 隆文	
星 輝昭	

●十和田市長下中学校 教員 小野 正博

●青森市古川三丁目 会社員 25才 小友 久司

●青森市千刈四丁目 公務員 36才 洞内 剛

●青森市中央一丁目 カメラ店 37才 藤巻 健二

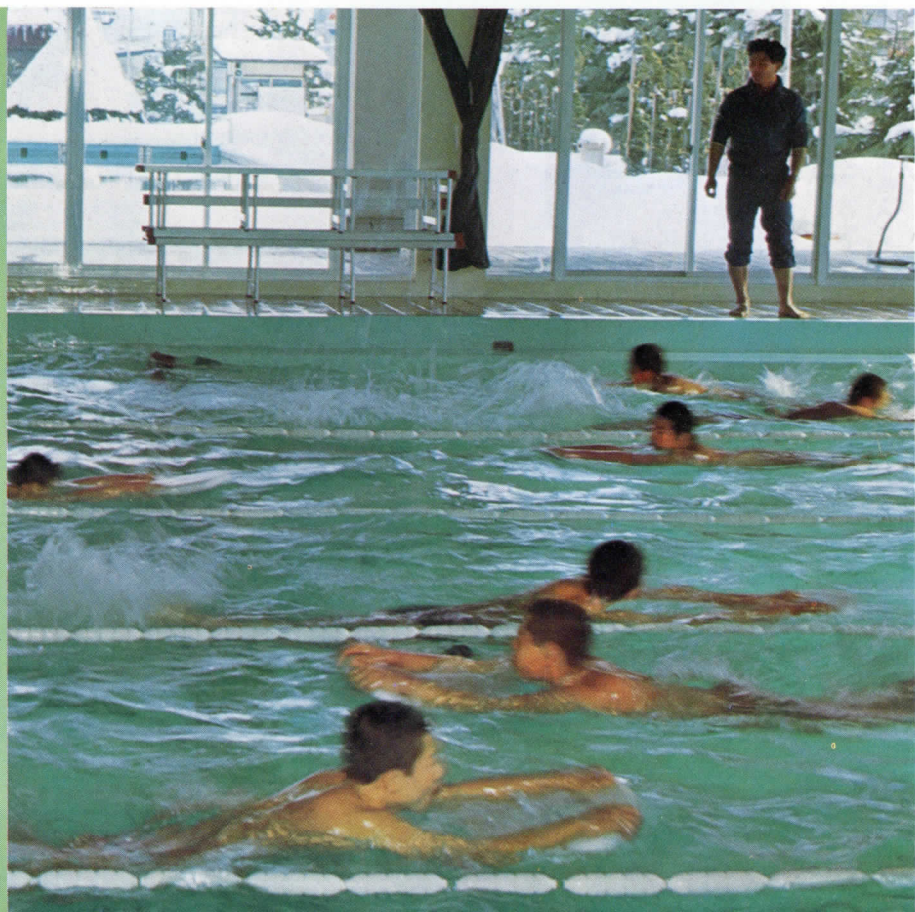
●八戸市小中野新丁 写真業 58才 亀本 田次郎



52年を目指してカブよくはばたく《あすなる》たち

あと三年、それは決して遠い先のことではない。毎日毎日、きびしい練習を重ねる選手達がここにある。県民の期待を胸に、その瞳

は晴れの日の勝利に燃えている。若いあすなる達に、私達県民の心からの声援をおくろう。『ケッパレ!』



雪の中での水泳ジュニア養成(青森・ヤクルト)



高校総体スケート県予選(八戸・長根リンク)



高校総体アイスホッケー県予選(八戸・長根リンク)



高校総体フィギュア県予選(八戸・長根リンク)



雲谷スキー場におけるジャンプ合宿



(上右) サッツの練習 (上左) 練習前のミーティング (下) ランディングバーンの整備



国体・全日本県予選(大鰐スキー場)



『随想』…あすなろ国体を価値あるものに



『若潮国体に参加して』

青森県体育協会副会長

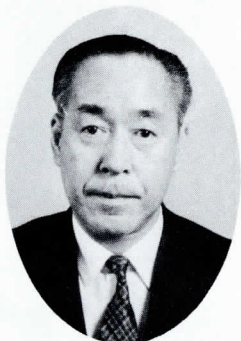
長谷川 進

四方青い海に恵まれ青春を潮のひびきに象徴して『若潮国体』と名づけ、「輝く心、輝く力、輝く太陽」をスローガンに三百八十万県民があげて協力した千葉国体は、地元千葉県が十二種目に優勝し、二一〇点という近年にない圧倒的な得点で天皇杯を獲得して成功裡に終了しましたが、なるほど県営総合運動場などの主要施設は目をみはるばかりであった。反面、ハイヤーの運転手の不親切さや、一般市民の関心の低さにはびっくりさせら

れた。

東京都のベッドタウンとして数十万近い自称千葉県民を擁し、かなり都市化しているせいもあるが、時代のうつり変りの激しさに一抹の淋しさを感じさせられた。

昭和五十二年頃は躍進青森のピークであり、この際全国各地から約二万名の老若男女のスポーツマンを迎えて青森県の本場の姿を理解していただく絶好の機会でもある。東北の素朴さを率直に出して深い感銘を与え好評を博した第二十五回岩手国体を見習い、総合優勝をして天皇杯獲得をねらうこともさることながら、それよりも百四十万県民の総力を結集して温かい親切な気持ちで迎え入れるところに青森国体の真の意義があると思う。



『あすなろ国体』に憶う

青森県体育協会選手強化対策

本部長 鳴海 吾郎

五十二年、冬季・夏季・秋季の全競技を一つの県で行う、全国初の完全国体が本県で開かれる。「あすなろ国体」未来への飛躍を願うあすなろのように、私たちもこれをきっかけに、スポーツのレベルアップ、社会体育の振興、地域社会の発展、明るい生活環境づくりを、県民一丸となって実現したい。

次の世代への遺産であり、県全体の大きな糧である。選手強化も、「五十二年は本県のスポーツ元年、まず種をまこう」という、長期的な展望で行われている。次の県スポーツ界、地域社会の担い手であるジュニア選手の養成もその一つである。小・中高の学校体育を盛んにし、地域ぐるみの体育へと結びつけねば効果は上りません。強い種目はさらに合理的な練習を重ねて王座を守り、不振の種目はレベルアップへの体制づくりを急ぐことだ。これを次代にバトンタッチする。「あすなろ国体」の精神はここにある。

県民総スポーツ運動など、みんながなんらかの形で国体に参加して、「心ゆたかに、力たくましく」県民の未来を開くことこそ、「あすなろ国体」の目標であろう。きびしい社会情勢のもとで、県民が協力し合い、苦労は多くとも、実り多い国体にしたと思う。



国体の花—総合陸上競技場

施設



開会式などが行われる県営総合運動場(青森市安田)

●県民みんなのスポーツ施設で 陸上競技場は、陸上競技の主会場となるほか、開会式や閉会式も行われるいわば「国体の顔」ともいえる存在。

あすなろ国体でこの会場になるのが、青森市安田の県営総合運動場の中にある「県営陸上競技場」である。

現在の県営競技場が建設されたのは、昭和四十一年六月。その翌月には、皇太子ならびに同妃殿下をお迎えして、全国高等学校総合体育大会が開かれている。

この大会の規模や内容は、国体にまさるとも劣らないといわれているので、この種の大きな行事は既に経験済みという力強い実績を持っている。

メインスタンドは、鉄骨鉄筋コンクリートの六階建。芝生スタンドを加えて、その収容人員は二万五千人。

トラックは、シンダー舗装による一周四百メートル・八コースの第一種公認トラック。

各種跳躍や投てき競技の行われるフィールドには、東京オリンピックで話題をよんだテフトン芝が張られている。また、補助競技場として、一周三百メートルのトラックも隣接している。

●現競技場を増改築

「あすなろ国体」では、この競技場を国体施設基準に合わせて、さらに増改築しおよそ三万人を収容できる施設にする。

まずスタンドは、昭和五十一年までに袖スタンドを増築。それでも足りない部分は、昭和五十二年に仮設スタンドで補う。

競技場内のトラックは、競技の運営、管理にあたって、本県の寒冷積雪地帯を考慮して、全天候型舗装材を入れることとし、昭和五十年には整備が終る予定である。また、補助競技場にも、一周三百メートルのコースが六本とれるサブトラックも整備され、将来県民のための施設としても活用されることになる。

